

# 伊丹福音ルーテル教会 新年礼拝のしおり

## 2022年1月1日

### 前奏

#### 招きのことば：イザヤ書 43 章 1-5 節

ヤコブよ、あなたを創造された主は イスラエルよ、あなたを造られた主は 今、こう言われる。  
恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。  
水の中を通るときも、わたしはあなたと共にいる。  
大河の中を通っても、あなたは押し流されない。  
火の中を歩いても、焼かれず 炎はあなたに燃えつかない。  
わたしは主、あなたの神 イスラエルの聖なる神、あなたの救い主。  
わたしはエジプトをあなたの身代金とし クシュとセバをあなたの代償とする。  
わたしの目にあなたは価高く、貴く わたしはあなたを愛し  
あなたの身代わりとして人を与え 国々をあなたの魂の代わりとする。  
恐れるな、わたしはあなたと共にいる。  
わたしは東からあなたの子孫を連れ帰り 西からあなたを集める。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。  
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

#### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくんだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず**、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 **アーメン**。

### 祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。あなたは私たちの昨年の歩みを導いてくださいました。また、今朝も共に礼拝にあずかって、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただきます。救い主であり、主であるイエス様が、新しい年も私たちの生活のただ中にお住いくださって、私たちの新しい年の歩みをも導いてください。礼拝で神様の愛と恵みに満たされ、家庭、社会で豊かに実を結ぶ年となりますように。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかなければなりません。その中でも 御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして 安心して 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

### 聖書朗読：ピリピ人への手紙 4章 4-14 節

主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、また、徳や称賛に値することがあれば、それを心に留めなさい。わたしから学んだこと、受けたこと、わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます。さて、あなたがたがわたしへの心遣いを、ついにまた表してくれたことを、わたしは主において非常に喜びました。今までは思いはあっても、それを表す機会がなかったのでしょうか。物欲しさにこう言っているのではありません。わたしは、自分の置かれた境遇に満足することを習い覚えたのです。貧しく暮らすすべも、豊かに暮らすすべも知っています。満腹していても、空腹であっても、物が有り余っていても不足していても、いついかなる場合にも対処する秘訣を授かっています。わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能で、それにしても、あなたがたは、よくわたしと苦しみを共にしてくれました。

### 福音書朗読：ルカによる福音書 2章 15-21 節

イエスは、天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。聞いた者は皆、羊飼いたちの話に不思議に思った。しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。

### **讚美歌 411 番**

1. すべしらす神よ、ときわに導く み手のおおみわざ、我ら ほめたたう
2. **新しき年は 主の愛をしめす、恵みは たえせじ 年の終わるまで**
3. 家にも 旅にも 夜昼 わかたず、み恵みを受けて この年を過ごさん
4. **我らの行く先、定かに見えねど、導く光に 身を委(ゆだ)ねまつらん**
5. 禍幸(まがさち)よしあし 行き交う中にも、我らの喜び 安(やす)きは主にあり **アーメン**

### **説教：「強めてくださる方」**

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

新年のご挨拶をいたします。本年もよろしくお願ひいたします。共に神様に恵まれてこの年を迎えることができ、幸いに思います。み言葉を聞いて新しい年を迎えることは大切ですね。本年は特に新約聖書のピリピ人への手紙をご一緒に覚えて歩みましょう。本年の標語を「共に恵みにあずかろう」とさせていただきます。毎週の週報の右肩に掲載されます。

ピリピ人への手紙はパウロによって書かれました。パウロはこの手紙を書いたとき、牢屋に監禁されていました。イエス・キリストの福音を宣べ伝えたということで捕らえられていました。しかし、ピリピ人への手紙は喜びの手紙と呼ばれています。苦しい境遇に置かれても満足して、そこで新しい命を生きる神の子としての喜びを、本年は味わっていきましょう。

パウロはピリピの教会にいくつかの喜びを表しています。1章7節を見ると、パウロはピリピの人々を「共に恵みにあずかるもの」と思って心に留めています。今年の標語です。ピリピの教会の人たちのことを思うといつも喜びにあふれます、と言っています。三つの喜びを味わいましょう。

第一に、礼拝で恵みに預かる喜びです。パウロはピリピの人々に言うのです。しっかり立っているあなたがたのことを思うたびに私には喜びがある、それはあなたがたは最初の日から今日まで福音にあずかっているからです(1章5節)。パウロはピリピの人たちがいつも礼拝で福音にあずかって来たことを喜んでいます。私たちも新しい年、礼拝で共に福音にあずかって歩みましょう。ついにそ見をして、礼拝がないがしろにされます。しかし、罪の赦しと新しい命にイエス様によってあずかっていることを礼拝で聞き続けましょう。

福音に共にあずかるとき、偽の教えに対してしっかり立つことができます。4章1節で、十字架に敵対して歩んでいる人が多いので、愛するあなた方は主にあってしっかり立ってほしい、とパウロは願っています。偽の教師たちは神様の恵みに預かることではなく、自分で努力することを教えます。神様のおきてを守ったら神様からほめられます、と教えます。律法から生じる自分の義をたてるように勧めます。人間は本気を出したらどんな試みの中も耐え忍び、神様を愛し、隣人のために命を与えることができる強い者だ。礼拝で神様の恵みにあずかることよりも、自分の力を信じて努力せよと教えます。

このような偽教師たちの教えは明るい感じでちょっと魅力的です。自分の罪を悔い改めてイエス様の十字架の赦しをいただくことは、偽教師にとっては、初めから自分の努力を諦めている、虫のいい、怠け者の考え方です。自分をそこまで無力で情けない、みじめな者だと否定的に考えなくてもいい。きっと神様は全面的に神様に頼るのではなくて、自分でできることを一生懸命に頑張る人を喜ばれるだろう。このように教えます。また、試練のとき、努力の結果がでないとき、すぐに神様に頼るのではなくて、気を取り直して心を入れ替え、本気になってがんばりなさい、と教えます。そういわれたら、厳しいけど正しい、と思いませんか。努力を大切にしていくと教会も世の中も活気に満ちて、よくなっていくように感じませんか。私たちも新しい一年、なんか努力目標を立てて手ごたえのある努力をしてみよう、と考えていませんか。

確かに、自分の思わしくない性質をかえていく努力、自分のことしか考えない自己中心な性格は、それを自覚して、治す努力をすることである程度は改善します。けれどもパウロは神様の前での正しさについて語ります。パウロには、偽教師たちが足元にも及ばない努力をして正しい生活をしてきた実績があります。しかし、パウロはそれらは十字架のイエス様を知るすばらしさから見るとなんの意味もないと言い切ります。自分で胸をはって神様の前に立とうとしても、生まれつき私たちは自分中心でわがままです。ひとりよがりな私たちはうまくいくと優越感に浸ります。うまくいかないとなんかの励ましを必要とします。自分を神とし、人から愛を奪います。そしてその性質は自分で治すことはできません。実のところ偽教師は生きる意味や目的は暫定的にしか持っていません。ですから苦しみの究極を強いられると、自分はどうせ本当は強くないのだ、と悲劇のヒロインのように自分を憐れんで、その味わいに陶醉します。どうなっても結局は自己中心でわがままです。イエス様を見上げることをせず、十字架に敵対しています。

神様はそんな自己中心な私たちをそのままにしませんでした。イエス様はその私たちのために人として来てくださって十字架で死んでくださいました。自分のいのちとひきかえに、私たちの自己中心の罪を赦して、復活の命をもって私たちに新しい心、新しいいのちを与えてくださいました。この一年、礼拝でイエス様によって私たちに与えられた福音に預かり続けましょう。

そして第二の喜びがあります。置かれた境遇を満足する喜びです。4章10節で、パウロはピリピの人たちが苦しみの中にいるパウロを思って心遣いをあらわしたことを感謝し、喜んでいきます。牢屋に投獄されるのは苦しいことですが、ピリピの人たちは福音のために苦しみを喜ぶパウロの心を理解して、贈り物をして支えています。パウロは置かれた境遇に満足しています。それは、イエス様の救いの恵みにあずかっているから、そしてその恵みに共にあずかっているピリピの人たちからの支えがあるからです。

この文脈で4章13節で、パウロは自分の力ではなく、パウロを強くしてくださる方、つまりイエス様によって、すべてが可能です、と言いました。すべてが可能です、というのは、自分勝手な願いをイエス様に助けていただいて、実現する、という積極思考のことではありません。パウロはイエス様によって強められて、置かれたすべての境遇に満足することが可能である、と喜んでいくのです。貧しくても豊かでも、空腹でも満腹でも、投獄されていても、どんな環境にも左右されずに満足する力です。試練の中でほんとうに必要なのは、そこで怒りをぶちまけたり絶望したりするのではなく、その境遇の中でも神様にあって変わらない満足と感謝を習い覚える力です。すべてがうまくいったときに本当に必要なのは、自分を失って浮足立つのではなく、満足し感謝することです。この一年、与えられたところ、自分の置かれた境遇を満身に満足し、感謝し喜ぶことから始めましょう。

パウロは1章12節で、「兄弟たち、わたしの身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったと知ってほしい」と書いています。パウロは自分の置かれた状況に満足して喜んでいきます。イエス様のことを人々に伝えたため、牢屋に入れられたことがどうして福音の前進に役立ったのでしょうか。ふたつの理由がありました。

ひとつはパウロが牢獄に監禁されることで、それまでイエス様のことを知らなかった、牢獄を管理している兵隊たち全員が、イエス・キリストのために捕らえられているパウロと言う人がいる、ということを知ることになりました。どのような手段であれイエス様のことが知られたのです。これは福音の前進です。

もうひとつは、すでにイエス様を信じている人たちが、パウロの投獄によって励まされて、いることが福音の前進でした。正確に言うと、パウロがイエス様を伝えたことで反対者たちにとらえられ、牢屋に監禁され、脅されても、キリストのために苦しむことは恵みである、と受け止めている姿を見たのです。調子のよいときだけではなく、監禁され自由のない最悪の状況の中で、パウロの心は誰も奪うことのできない本物の喜びで満たされています。死ぬこと、つまり世を去ってキリストと共にいることは最も望ましい喜び、しかし、生き延びてピリピの人々

と共にいることができると、つまり神様から託された使命に生きることも喜び、どちらの喜びにあずかるのかの板挟みになっているとパウロは言います。イエス様は神様なのにご自分を無にして人として来てくださり、十字架の死に至るまで従順に歩み、私たちの救い主となってくださいました。イエス様によって罪赦されて神様の子とされているという恵みを受けて、パウロはすべてをご支配なさっている恵みの神様の御手に全くゆだねる平安をいただいています。パウロは、強くしてくださるイエス様によって、置かれた境遇に満足して喜んでいました。人々はパウロの喜びと平安を知って、おなかの下の方からつきあげるような励ましを受けました。そして、ますます勇敢に、恐れず確信をもってみ言葉を宣べ伝えることになりました。

第三に、思い煩いから解放される喜びです。主において常に喜びなさい、重ねて言います、喜びなさい、と4章4節でパウロはピリピの人々に語り掛けます。置かれた境遇に満足する、というのは必ずしも現状を維持しなさい、ということではありません。喜びの反対は悲しみ、というよりも喜びの反対は思い煩いではないでしょうか。積極的でポジティブな気持ちの反対は、一見、消極的でネガティブな気持ちと思われるかもしれませんが、むしろ自分を自分で守ろうとする思い煩いです。思い煩いはすぐに私たちの心に忍び込んで、私たちを支配します。どうしてこうなったのか、このままでいいのか、これからどうなるのか、と思い煩います。自分を自分で守りたいのだけど、守れないといういらだちが思い煩いです。そのため置かれた境遇に満足できないのです。パウロは言います。何も思い煩わないであらゆる場合に感謝をもってささげる祈りと願いによってあなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そしてそこに喜びの約束があります。そうすれば、あらゆる人知をこえる神の平安が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。感謝をもって祈りつつ、神様に知っていただきましょう。必ず、神様の与える平安があなたを包み、置かれた境遇を感謝してそこで新しいいのちを生きるようにされます。

新しい一年、喜びであふれた年になります。礼拝で恵みにあずかり、置かれた境遇に満足し、感謝を込めてよく祈りましょう。共に恵みにあずかって歩んでまいりましょう。

「どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。」ピリピ 4:6

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

### **讚美歌 414 番 献金 献金感謝の祈り**

1. あらたまの 年たちかえり、うらうらと 初日(はつひ)におえり  
家ごとに松竹たてて 新年(にいどし)を 祝うめでたさ
2. **人みなは 親しみ むつび、おさまれる 御代をことほぐ**  
**恵みもて 年のかむりと なしたまえ 天(あま)つ御神よ**

3. ひととせの 計画(たくみ)は すべて 新年(にいどし)に ありと言え  
みこころを 我に示して、この年も 勝ちを得させよ

4. うつし世も 天(あま)つみくにの 心地して きよきこの日の  
我がたまを いよよきよめて ささげばや きよきみまえに アーメン

#### 主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。  
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。  
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。  
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。  
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

#### 頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊の おおみ神に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

#### 祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき  
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一年も、いく久しくとこしえまでも、豊  
かにありますように。 **アーメン**

#### 後奏